
解除不可

ネロ+

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

解除不可

【Nコード】

N7266D

【作者名】

ネロ+

【あらすじ】

2XXX年、ある町で強盗事件が起きた。爆弾を持っていて、それを人質と連動させていた。犯人を逮捕し、人質を解放し、処理班が爆弾を解除したが……

プロローグ（前書き）

読んでくれてありがとうございます。

プロローグ

2×××年、強盗犯が捕まり持っていた時限式の爆弾を爆発物処理班が軽やかな手つきで爆弾解除にかかるところだった。

比較的単純な爆弾だったので新人の和合が処理にかかった。和合は新人ではあったが成績優秀で実績もあった。青い導線を切りその当時爆弾に使われていたメノキスという解除を複雑にする装置を分解し時限装置を止めるだけだった。メノキスの解除方法はスクールで習っていた。複雑ではあったが覚えれば大した事は無かった。

青い導線を切り、メノキスの解除にかかった。約2分位かかった。タイマーが止まり不安に溺れていた人質が歓声をあげた。解放された人質は家族の元へ走っていった。「よくやった。」と先輩の野本に褒められた。少しばかり嬉しかった。爆弾を持ち上げ、処理班の車に持っていくとしたその時だった。

「ピッピッピ」と電子音が鳴り響いた。和合は耳を疑った。疲れているのだろう、咄嗟に和合はそうこじつけた。しかしその幻聴と思われる電子音は未だに消えようとしなかった。ひどい耳鳴りだ。和合は不意にタイマーを見た。

「1:26・1:25・1:24・」タイマーは時を刻んでいた。心臓の高鳴りを和合は感じた。有り得ない、解除は成功したはずだ。恐怖に負けて和合は野本を呼んだ。

「野本さん！爆弾が再びう、動き出しました！」

「何だと！？急いで置け！再解除だ！！」

和合は爆弾をコンクリートの上にそっと置いた。処理班のエリート集団「グループ4」が車内から飛び出してきた。爆弾の周りを囲み、いろいろな器具を用いて解除に没頭した。和合は野本の元へ走って行き、状況報告を速やかに行った。和合の心臓の高鳴りは一向に止む気配を見せなかった。こういった事態は何度も見てき

たが今回は何故か違った。解除できるといふ希望が見当たらない。それどころか、爆発してみんな死ぬという絶望しか見出せなかった。

グループ4の作業は止まらなかった。いつもなら20秒もあれば停止していたはずなのに。突如グループ4の一人がその場を走り去った。全速力で逃げていった。全員が目を疑った。あのグループ4が。その後も一人、二人と逃げていき遂に残り一人となった。

その一人が拡声器で「緊急事態です！住民および警察の人々は直ちに避難してください！」その声とともに住民と警察の一部が逃げ去った。警察の一部は強盗犯に入手先などを聞いていたが強盗犯は気絶しており、何も答えなかった。

その後、どんどん逃げて行き、残ったのはグループ4員と和合、野本だった。

「野本さんは逃げないんですか？後30秒はありますよ。」と和合「逃げない。私は処理班だ。解除するまで逃げるわけにはいかない。お前こそどうなんだ？逃げないのか？」

「逃げませんよ。ま、死ぬときは皆一緒でことで。見たいなね。はは。」

和合も野本もやけに落ち着き払っていた。

「なあに。3人がなんたら文殊の知恵ですよ。解除しますよ。」グループ4員が言った。3人で色んな場所をいじったが止まる気配は無かった。

残り10秒。さすがに焦った。皆息が荒くなった。

「くそ！止まれ！止まれ！止まれ！」和合は叫んだが止まることは無かった。電子音は和合達を嘲笑うかのように鳴り響いた。

9・8・7・6・5・4・3とどんどん死への階段を上っていった。

「畜生！畜生！畜生！」

カチっという音と共に爆弾は破裂した。とてつもない高温が和合達

を包み込んだ。

体が焼けていく。・・・3人は息絶えた。爆風は獲物を求めるライオンのように町の方へ向かった。凄まじい威力だった。核爆弾と同等、もしくはそれ以上だった。町を覆い、死者を出現させた。逃げていった者も、家にいた者も全て。

町は爆弾の破裂により、終焉を迎えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7266d/>

解除不可

2010年12月9日14時42分発行